

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 1 年 7 月 調査結果 —

(平成 1 1 年 8 月 2 日)

○調査期間：平成 1 1 年 7 月 1 9 日～2 6 日

○調査対象：全国の 3 9 0 商工会議所が 2 6 3 3 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 4 4 卸売業 2 4 0
小売業 7 5 9 サービス業 6 0 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL：0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3
E-Mail：sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成11年7月調査結果のポイント】

業況DIのマイナス幅縮小、景況感の悪化度合い弱まる

- 7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は小売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、前月水準に比べマイナス幅は2.1ポイント縮小して▲44.6となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、業況DIのマイナス幅は縮小傾向が続ぎ、5月、6月には縮小傾向に一服感が見られたが今月再びマイナス幅は縮小に転じており、中小企業の景況感徐々に底離れを探る状況が伺われる。マイナス水準での推移は平成3年4月以来100ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来95ヶ月連続となっている。

建設業では、公共工事については「ある程度の量が確保されているものの、工事の大型化により中小まで仕事が回ってこない」との声が寄せられている。また、公共工事の先行きの発注に対する関心が高い。民間工事についても引き続き仕事量の不足が指摘されており、住宅建設については「住宅取得促進税制の効果から着工件数は徐々に増えているようだが、工事は大手住宅メーカーに流れており中小にはあまり回ってこない」との指摘も多い。製造業では、電子部品製造からは「在庫調整が一巡し受注量増加の兆し」、「好転傾向が見られる」などの声が寄せられている。自動車部品からは「受注は若干増加しているが仕入れ単価が厳しく収益アップにはつながってこない」との声が寄せられた。住宅関連では、製材から「住宅着工件数が増えているのは明るい兆しだが価格や工法の問題から『労多くして益無し』の状態」との声や消費低迷による家具への需要低迷や買替意欲の低下などが指摘された。卸売業では、「下げ止まりの感があるが消費者は将来への不安を払拭できず需要の停滞は当分続く」との見方が寄せられている。また、「発泡酒の伸びは急上昇だが低価格のため売上、収益とも思ったほどではない」との声もあった。小売業では、引き続き、客単価の下落や客数の減少など消費の低迷を指摘する声が多い。今月は夏物衣料、住居関連、雑貨の落ち込みが大きく前年水準を割り込んでいるとの声のほか、中元商戦も法人需要の低迷が引き延びていることに加え、個人についてもボーナスの減少による件数絞込みにより前年割れとの声が多い。また、セール待ちの買い控えが見受けられるとの指摘も寄せられた。サービス業では、「一時期の低迷からは底離れしてきたが客単価は相変わらず低い」など業況の低迷を指摘する声が多い。先行きについては夏休みの客数増への期待が多く寄せられている。

売上面では小売業、サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、卸売業でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲41.2となった。採算面では小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が0.9ポイント縮小して▲42.5となった。

- 向こう3ヶ月（8月～10月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲29.4となり、現状（▲44.6）より好転するとの見方となっている。
- 景気に関係する声、当面する問題としては、今後の公共工事発注に対する関心が多く寄せられた。

【業況についての判断】

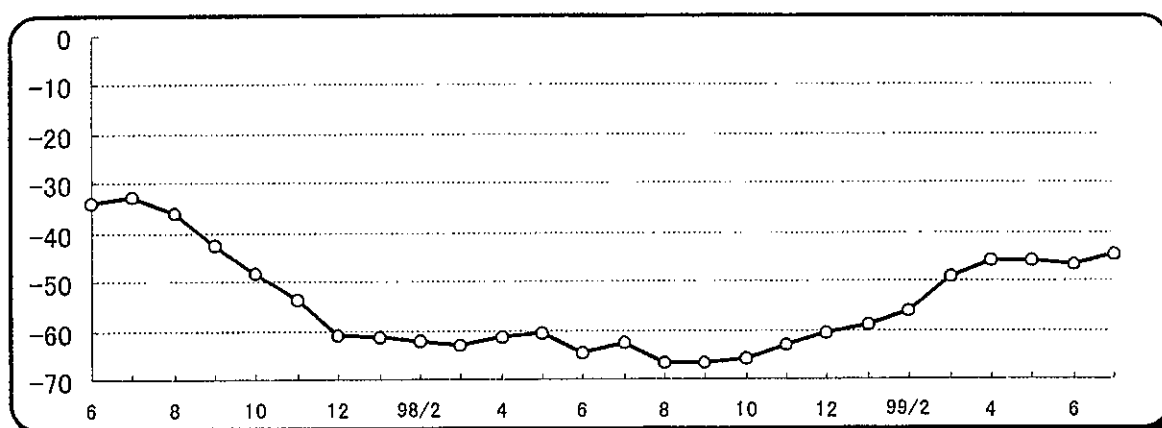
- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース。以下同じ）は小売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、前月水準に比べマイナス幅は2.1ポイント縮小して▲44.6となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、業況D Iのマイナス幅は縮小傾向が続き、5月、6月には縮小傾向に一服感が見られたが今月再びマイナス幅は縮小に転じており、中小企業の景況感徐々に底離れを探る状況が伺われる。マイナス水準での推移は平成3年4月以来100ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来95ヶ月連続となっている。
- 向こう3ヶ月（8月～10月）の先行き見通しは全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲29.4となり、現状（▲44.6）より好転するとの見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲56.2	▲49.2	▲45.9	▲46.0	▲46.7	▲44.6	▲29.4 (▲47.1)
建設	▲53.1	▲41.1	▲45.4	▲41.2	▲45.1	▲41.2	▲32.0 (▲52.7)
製造	▲61.7	▲52.5	▲50.5	▲49.7	▲48.6	▲43.1	▲24.6 (▲52.3)
卸売	▲44.5	▲40.9	▲35.6	▲41.7	▲46.2	▲42.0	▲22.6 (▲40.5)
小売	▲57.9	▲52.6	▲46.8	▲51.0	▲47.3	▲50.2	▲37.4 (▲46.0)
サービス	▲54.8	▲49.8	▲44.3	▲40.2	▲45.1	▲42.6	▲25.7 (▲41.9)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヶ月の先行き見通しD I
 () 内は昨年や7月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



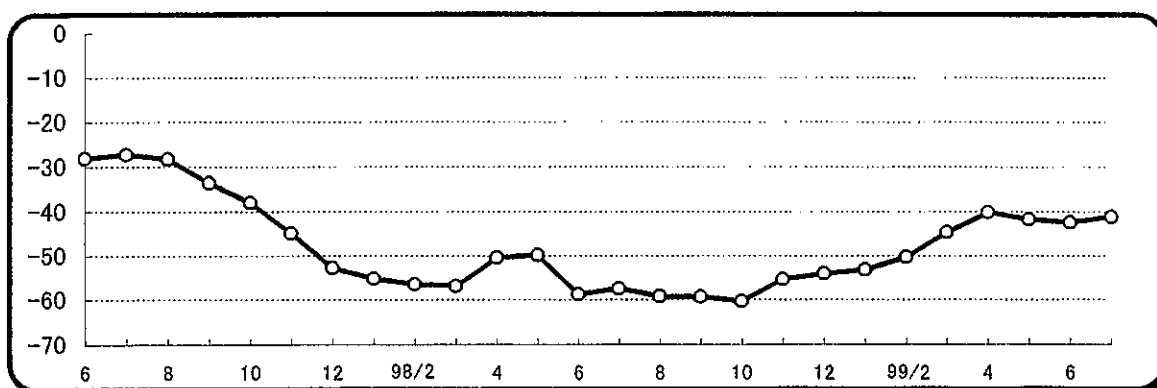
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では小売業、サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、卸売業でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲41.2となった。
- 向こう3ヶ月（8～10月）の先行き見通しDIは全産業合計で▲24.7と現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 50.4	▲ 44.8	▲ 40.2	▲ 41.8	▲ 42.4	▲ 41.2	▲ 24.7 (▲ 43.0)
建設	▲ 45.7	▲ 27.9	▲ 36.5	▲ 40.6	▲ 39.2	▲ 35.3	▲ 25.1 (▲ 43.1)
製造	▲ 57.7	▲ 51.9	▲ 48.8	▲ 43.8	▲ 47.4	▲ 39.6	▲ 20.0 (▲ 50.3)
卸売	▲ 36.4	▲ 32.4	▲ 27.1	▲ 31.3	▲ 42.0	▲ 33.1	▲ 19.6 (▲ 35.4)
小売	▲ 51.2	▲ 52.1	▲ 37.3	▲ 45.5	▲ 43.6	▲ 49.3	▲ 34.0 (▲ 42.4)
サービス	▲ 49.8	▲ 43.7	▲ 42.1	▲ 39.8	▲ 37.8	▲ 40.1	▲ 19.8 (▲ 38.7)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



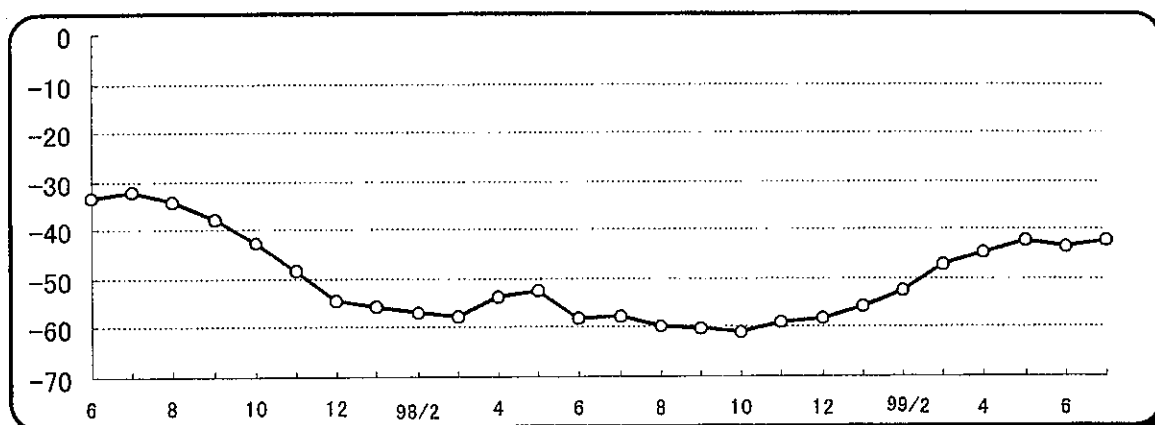
【採算の状況についての判断】

- 採算面では小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が0.9ポイント縮小して▲42.5となった。
- 向こう3ヶ月(8~10月)の先行き見通しは全産業合計で▲28.7と現状より好転するとの見方となっている。

採算DI (前年同月比) の推移

	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 52.7	▲ 47.1	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 42.5	▲ 28.7 (▲ 43.7)
建設	▲ 55.8	▲ 42.8	▲ 44.4	▲ 41.9	▲ 44.9	▲ 41.5	▲ 32.0 (▲ 48.5)
製造	▲ 60.0	▲ 53.7	▲ 55.1	▲ 47.3	▲ 49.3	▲ 46.2	▲ 27.8 (▲ 49.1)
卸売	▲ 35.3	▲ 36.4	▲ 32.4	▲ 36.0	▲ 42.8	▲ 38.1	▲ 24.6 (▲ 40.0)
小売	▲ 52.1	▲ 49.9	▲ 40.9	▲ 44.5	▲ 41.0	▲ 44.3	▲ 34.9 (▲ 41.5)
サービス	▲ 50.0	▲ 43.2	▲ 43.0	▲ 37.3	▲ 39.2	▲ 38.6	▲ 21.3 (▲ 39.0)

《採算DI (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	1.2	0.8	0.5	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 4.4 (▲ 5.7)
建設	6.5	3.1	3.7	2.8	0.7	1.8	▲ 4.3 (▲ 7.4)
製造	▲ 3.3	▲ 0.4	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 9.5 (▲ 7.5)
卸売	4.6	9.1	7.9	2.8	9.2	9.5	0.6 (1.5)
小売	4.4	▲ 0.2	2.7	1.1	0.4	1.9	0.4 (▲ 4.0)
サービス	▲ 2.9	▲ 1.7	▲ 3.0	▲ 3.9	▲ 5.5	▲ 4.9	▲ 7.0 (▲ 7.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】 製造業で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】 全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 16.6	▲ 17.3	▲ 15.8	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 15.9	▲ 11.7 (▲ 14.9)
建設	▲ 24.0	▲ 26.1	▲ 23.2	▲ 25.3	▲ 24.1	▲ 21.6	▲ 17.4 (▲ 28.4)
製造	▲ 26.1	▲ 25.6	▲ 25.8	▲ 27.0	▲ 25.5	▲ 24.4	▲ 16.0 (▲ 23.7)
卸売	▲ 11.6	▲ 15.3	▲ 13.0	▲ 14.2	▲ 10.3	▲ 15.4	▲ 8.8 (▲ 8.7)
小売	▲ 10.0	▲ 9.5	▲ 7.4	▲ 11.2	▲ 9.8	▲ 9.9	▲ 8.9 (▲ 7.8)
サービス	▲ 11.1	▲ 12.4	▲ 11.2	▲ 12.6	▲ 9.9	▲ 10.4	▲ 9.3 (▲ 8.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】 建設業、製造業で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】 全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年7月の景気キーワード】

○下げ止まり感

景況について、引き続き厳しい状況を指摘する声が多く寄せられる一方で、「下げ止まり感」があるとの声も寄せられている。「景気回復とまではいかないが下げ止まり」（浜田・総合卸）をはじめ「下げ止まり感があり受注が上向いてきている」（境港・商店街）、「向こう3ヶ月も若干ながら受注増が期待できることから、厳しいながらも薄日が差してきた感がある」（佐世保・建設）や「少しずつ好転の兆しが出てきた」（塩尻・電子部品製造）など景気の下げ止まり感を指摘する声も寄せられている。しかしながら「回復の兆しはみえるが現状実質を伴わない」（名古屋・管工事）や「具体的な好転材料はないが下げ止まりが感じられる」（川崎・大型店）、「やっと底を脱した感じ。しかし仕入れ単価は厳しいものがあり収益アップにはつながっていない」（岡崎・自動車部品）などの声も寄せられており、はっきりとした回復への動きは顕著ではなく、「仕事量は若干増となっており、今後も同じ状況で推移すると思われるが単価が安くなっており採算は厳しく今一段の景気回復感を望む」（帯広・建設）といった声も寄せられている。

○消費の低迷

消費の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられており、「個人消費の回復がみられず、引き続き、厳しい状況が続く売上も低迷している」（長岡・繊維卸）、「来街者は増えているが、売上には結びついていない」（帯広、久慈・商店街）、「ボーナスが前年を下回り、減税を上回る所得減少が起きており、商況は依然厳しい状況が続いている」（京都・大型店）をはじめ消費の低迷を指摘する声も多く寄せられている。夏物衣料については「昨年と比較して天候不順による総合的な夏物商品、特に夏物衣料の動きが鈍化状態」（小牧・大型店）であり「中旬から売上が回復してきている」（倉敷・大型店）ものの「夏物衣料は予想を下回る結果」（瑞浪・商店街）など夏物衣料の売上不振を指摘する声も多く寄せられている（上田、下館、沼田、狭山、半田、堺、泉大津松原・大型店他）。また、住居関連、雑貨の売上不振を指摘する声も寄せられている。中元商戦については「法人需要の更なる低迷と個人客の更なる届け先件数削減が顕著」（横浜・大型店）で「中元商戦は低調に推移している」（金沢・商店街）など中元商戦の不調を指摘する声も寄せられている（東広島・酒類製造、清水・食品卸、静岡、檀原・商店街、会津若松、二本松、三条、下館、柏、一宮、美濃加茂・大型店）。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年5月	先行き期待	消費の低迷	
6月	下げ止まり感	消費の低迷	
7月	下げ止まり感	消費の低迷	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。公共工事については「ある程度の量が確保されているものの、工事の大型化により中小まで仕事が回ってこない」との声が寄せられている。また、公共工事の先行きの発注に対する関心が高い。民間工事についても引き続き仕事量の不足が指摘されており、住宅建設については「住宅取得促進税制の効果から着工件数は徐々に増えているようだが、工事は大手住宅メーカーに流れており中小にはあまり回ってこない」との指摘も多い。
製 造	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。電子部品製造からは「在庫調整が一巡し受注量増加の兆し」、「好転傾向が見られる」などの声が寄せられている。自動車部品からは「受注は若干増加しているが仕入れ単価が厳しく収益アップにはつながってこない」との声が寄せられた。住宅関連では、製材から「住宅着工件数が増えているのは明るい兆しだが価格や工法の問題から『労多くして益無し』の状態」との声や消費低迷による家具への需要低迷や買替意欲の低下などが指摘された。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「下げ止まりの感があるが消費者は将来への不安を払拭できず需要の停滞は当分続く」との見方が寄せられている。また、「発泡酒の伸びは急上昇だが低価格のため売上、収益とも思ったほどではない」との声もあった。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。引き続き、客単価の下落や客数の減少など消費の低迷を指摘する声が多い。今月は夏物衣料、住居関連、雑貨の落ち込みが大きく前年水準を割り込んでいるとの声のほか、中元商戦も法人需要の低迷が続いていることに加え、個人についてもボーナスの減少による件数絞込みにより前年割れとの声が多い。また、セール待ちの買い控えが見受けられるとの指摘も寄せられた。
サービス	業況・採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、売上D Iはマイナス幅が拡大している。「一時期の低迷からは底離れしてきたが客単価は相変わらず低い」など業況の低迷を指摘する声が多い。先行きについては夏休みの客数増への期待が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道、東北、関東、近畿、中国、四国、九州の7ブロックで前月水準を上回り、北陸信越、東海の2ブロックで前月水準を下回った。

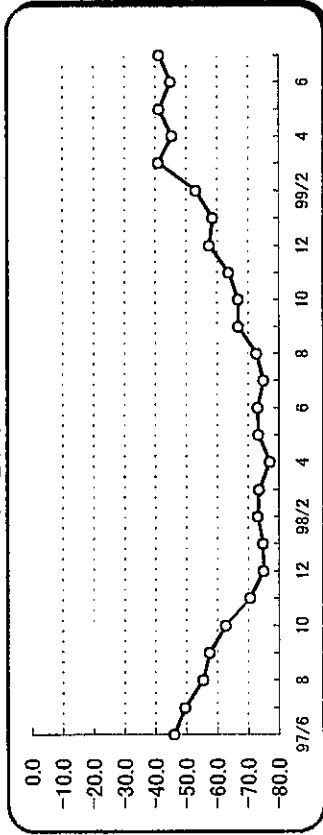
○ ブロック別の向こう3ヶ月の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

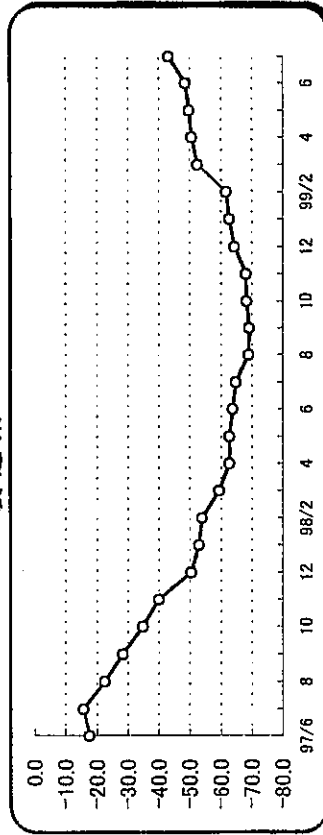
	11年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全 国	▲ 56.2	▲ 49.2	▲ 45.9	▲ 46.0	▲ 46.7	▲ 44.6	▲ 29.4 (▲ 47.1)
北 海 道	▲ 44.0	▲ 34.8	▲ 29.2	▲ 29.6	▲ 23.0	▲ 22.4	▲ 14.8 (▲ 43.5)
東 北	▲ 65.1	▲ 47.0	▲ 46.1	▲ 42.4	▲ 38.1	▲ 37.7	▲ 23.8 (▲ 53.5)
北陸信越	▲ 62.8	▲ 47.0	▲ 51.1	▲ 46.2	▲ 46.7	▲ 49.7	▲ 34.2 (▲ 44.8)
関 東	▲ 55.1	▲ 49.0	▲ 46.2	▲ 50.5	▲ 46.1	▲ 42.7	▲ 26.7 (▲ 43.4)
東 海	▲ 66.9	▲ 57.1	▲ 47.2	▲ 46.3	▲ 50.9	▲ 52.1	▲ 38.0 (▲ 58.3)
近 畿	▲ 61.9	▲ 54.6	▲ 53.6	▲ 51.8	▲ 57.1	▲ 55.9	▲ 37.0 (▲ 49.6)
中 国	▲ 52.8	▲ 58.2	▲ 52.9	▲ 48.9	▲ 53.6	▲ 47.1	▲ 36.0 (▲ 49.5)
四 国	▲ 53.1	▲ 51.3	▲ 47.5	▲ 51.3	▲ 56.2	▲ 49.6	▲ 23.9 (▲ 32.1)
九 州	▲ 44.5	▲ 40.3	▲ 34.2	▲ 35.1	▲ 42.3	▲ 38.8	▲ 26.0 (▲ 47.5)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

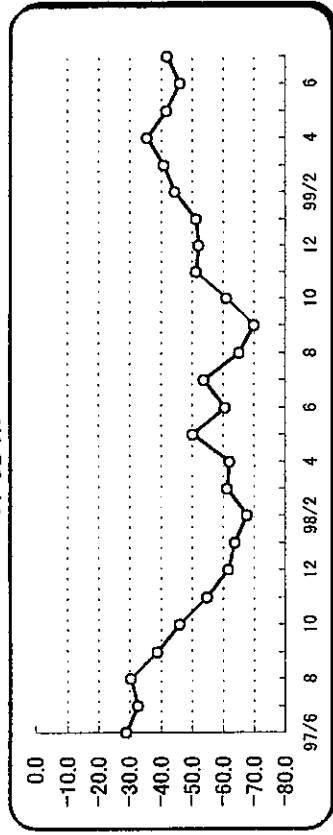
建設業



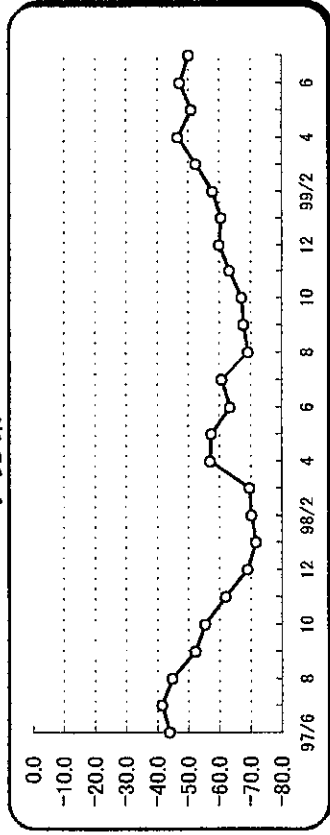
製造業



卸売業



小売業



サービス業

